

バラッサ・サミュエルソン効果と日本の労働市場：1977-2008

神戸市外国語大学 藤井 隆雄
神戸大学 松林 洋一

本稿は日米間の実質為替レートを用いてバラッサ・サミュエルソン効果の検証を行ったものである。バラッサ・サミュエルソン効果については、理論的に貿易財部門と非貿易財部門の賃金の同一性の仮定がなされているが、その点に焦点をあてている点が本稿の特徴である。パネル閾値回帰モデル(panel threshold regression model)を用いて分析を行った結果、貿易財部門と非貿易財部門の賃金差が拡大したことを受け、バラッサ・サミュエルソン効果が低下していることが明らかとなった。